

第1学年2組 学級活動指導案

1. 日時・場所 平成30年12月5日(水) 5校時 13:40~14:25 1年2組教室

2. 議題 「すまいるこおりおにをしよう」

学級目標	
た	のしんでまなぶ
す	まいる
け	じめをつける
あ	いのあるやさしさ
い	っしょうけんめい
ね	ばりづよく

3. 議題について

(1) 児童の実態

本学級は、相手の話到最后まで耳を傾けることや、自分の思いがあってもなかなか伝えられないなど、相手意識をもった行動をとれる児童が少ない。しかし、とても素直で明るい児童が多く、教師が褒めたことを継続的に続けようとする。学校生活にも慣れ、当番活動や係活動では、友達と協力しながら取り組み、1年生ながら助け合って学級生活を送ろうとしている。一部には、自分のことしか考えられず、自己中心的な行動をとってしまう児童もいるが、相手のことを思って手を差し伸べたり、優しい言葉をかけられたりする児童もいる。帰りの会で、友達の良かったところを発表したり、教師が児童の良かったところを褒めたりして、お互いのよさに気づき、認め合えるように指導しているところである。

学級目標を決める際には、一人一人がどんなクラスにしていきたいかを発表した。思いやりのあるクラスや笑顔のクラス、頑張るクラスなどという意見が出た。それを基に、「たすけあいね」という合言葉ができた。秋の遠足、まなびフェス(学習発表会)等の振り返りで学級目標に立ち返ることで児童もさらに学級目標を意識して行動できるようになってきた。

学級会では、主に「集会で何をするか」について話し合いを行ってきた。第1回「教室でなかよくあそぼう」では、3つの遊びを教師が提案した。その中から1つ選んで遊びをするまでを45分の中で行った。話し合いでは、それぞれ自分がしたい遊びに集中しすぎたが、ある児童が「もう一つは、今度したらいいと思う。」と提案したことで1つに歩み寄って決めることができた。初めての学級会は、教師主体で学級会の流れを知り、クラス全員で1つに決める難しさを知ったものになった。第3回の「6年生と梅ジュースパーティーをしよう」では、相手を意識した話し合いができた。6年生が、笑顔になりそうなことを児童なりに考えてゲームを1つ決められた。第4回の「東高根森林公園で遊ぼう」では、初めて児童が、司会や記録に挑戦した。どうしても1つに決めることができず、時間を3つに分けてゲームをした。後期も始まり、議題ボックスを設置した。議題ボックスに初めて入れられた議題が、第5回の「議題ボックスの名前を決めたい」というものだった。第4回の話し合いのときに「なんでもいい」と書いていた児童が、「どうしてもドリームという言葉を入れたい」という気持ちを伝えられ、友達に同意してもらえて嬉しそうにしていた。その児童以外にも、教師が励ましたことで今まで意見を言えなかった児童も少しずつ自分の思いを伝えられるようになってきた。話し合いが活発になる中、意見を合体させて名前を決めることができた。振り返りには、「初めて自分の意見が言えて嬉しかった」と書いている児童が多くいた。今回の学級会では、友達の思いに耳を傾けながら、自分の思いも伝えて「すまいる」になれる氷鬼の工夫ということを意識した話し合いをし、よりよい学級会になることを期待している。

(2) 議題選定の理由

本議題は、議題ポストへ「こおりおにをしたい。」と提案されていたものである。1年生の最初に氷鬼をして楽しかったことやタッチをする時に声をかけて仲よくなれた経験から、今回の氷鬼でも、学級目標である「すまいる」になっていたいという提案者の思いから、本議題を設定した。

今回、初めて遊びの工夫について話し合う。始まる前、氷鬼中、終わった後にどんなことをしたら「すまいる」になれるかを考えることで、今まで知っていたルールを自分たちで少し工夫するだけでより楽しくなる喜びや、自分たちでやり遂げることができた達成感を味わえるようにしていきたい。

4. 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級の身の回りのお題に関心をもち、他の児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、仲よく助け合って実践している。	みんなで学級生活を楽しくすることの大切さや学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の基本的な進め方などについて理解している。

5. めざす子どもの姿にせまる手立て

研究テーマ

互いのよさを生かし合い、一人一人が輝く特別活動

～「なすことによって学ぶ」共に歩む姿をめざして～

低学年のめざす子どもの姿

- 自分の思いを伝えようとする子【自分に自信をもてる姿】
- 友達を大切に、一緒に活動する子【仲間と共に歩もうとする姿】
- 進んで活動し、みんなと仲よく助け合い学級生活をよりよくしようとする子【自分たちの生活は自分たちでつくっていかうとする姿】

【自分の思いを伝えようとする子】(自分)

○話し方・聞き方の掲示(常時)

友達の意見にしっかりと耳を傾けられるように「話し方、聞き方」を掲示し、みんなに分かりやすい発表ができるようにする。

○学級会コーナーの活用(常時・学級会)

事前に、話し合う内容や役割分担を掲示することにより、スムーズな話し合いができるようにする。

○ルールの工夫について話し合えるようにする(学級会)

氷鬼の基本的なルールをこの時間までに確認しておき、ただルールについて話し合うのではなく、ルールの工夫が話し合いの焦点になるようにする。

○学級会ノートの活用(学級会)

事前に自分の考えを具体的に書く。そのことにより、自分の思いや考えをもって話し合いに参加しようとする気持ちを高めるようにする。

教師が事前に目を通しコメントを入れて、事前に発表するように励ます。自信をもって話し合いに参加できるようにする。

○板書の工夫 思考の可視化(学級会)

話し合いの流れが分かるように、短冊を用意して意見を比べやすくしたり、話し合いの流れが分かるように示したりして見通しをもてるようにする。

出し合う、比べ合う、まとめるでの話型を掲示していく。

賛成マークを、児童の写真にし、誰がどの意見を支持しているのか分かるようにする。

【伝え合い、合意形成をめざす】（仲間）

○少数意見も大切にする（学級会）

多数決で決めようとせずに、出てきた意見を合体させたり、めあてに近いものを考えたりしながら折り合いをつけて決定していくよう事前に指導する。

○教師の出番の見極め（学級会）

できる限り自分たちで決めていけるように見守る。そのために事前にプロジェクトチームと流れを確認しておく。

○話合いのめあての確認（学級会）

「すまいるになれるこおりおにをしよう」と設定した。どんなことをしたら笑顔になって仲よくなれるかを考えられるように伝える。

○場作り（学級会）

コの字型に座ることで、相手と近くなり相手を意識して話したり、聞いたりする。

【進んで活動し、みんなと仲よく助け合い学級生活をよりよくしようとする子】（生活）

○実践活動（事後）

集団決定した事柄に対し、一人一人がめあてをもって氷鬼にのぞめるようにする。

○自分の活動や話合い全体を振り返る場面を活用する（事後）

学級会ノートに振り返りを書き、全体で共有する。よかったところを認め、自分たちで内容を決定できたことで達成感を味わえるようにする。

活動の場	活動内容	支援（○）と評価（☆）
10月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・議題ポストに「こおりおにをしたい。」という思いが寄せられる。 	<p>○提案者の思いを汲み取り、どんな氷鬼にしていくか決める。 ☆学級活動に関心をもち、学級をよりよくしようとしている。 （集団活動や生活への関心・意欲態度）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・議題ポストから議題を集め話合いの議題を選ぶ。 	<p>○今回の議題が「みんなでふれあってすまいるになる氷鬼をしていく」ことを提案者に確認する。 ☆寄せられた議題の中から議題を選ぼうとしている。 （集団の一員としての思考・判断・実践）</p>
11月20日(火) 中休み	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチームと提案者でめあてと役割分担を決める。 	<p>○今回の学級会で何を大切にして話し合うことが必要か考えられるようにする。 ○話合いの流れをイメージできるようにする。 ☆話合いに向けて、計画的に準備しようとしている。 （集団の一員としての思考・判断・実践）</p>
11月20日(火) 帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ・議題、話し合うこと、提案理由（思い）、めあて、決まっていることを共有し、どんな工夫ができそうか考えておくようにクラス全体に伝える。 ・氷鬼の基本的なルールを確認する。 	<p>○提案者が思いを自分の言葉で伝えられるよう、事前に確認しておく。 ○話し合うこと、提案者の思いを共有し、めあてを意識できるようにする。 ☆議題について関心をもっている。 （集団活動や生活への関心・意欲・態度） ○基本的なルールを共通理解し、全員が同じ土台で話し合えるようにする。</p>
11月21日(水) 朝の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を学級会ノートに記入する。 [話し合うこと①] すまいるルールの工夫 	<p>○一人一人が話合いのめあてを意識した自分の意見を書くよう助言する。 ○一人一人の意見に目を通し、積極的な発言につながるような支援をする。 ☆提案理由やめあてに合った自分の考えを記入している。 （集団の一員としての思考・判断・実践）</p>
12月3日(月) 中休み	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチームの児童を集め、話合いの流れの確認をしておく。 	<p>○学級会ノートの意見を見ながら、話合いの流れを計画できるようにする。 ☆話合いの流れを考えている。 （集団活動や生活への関心・意欲・態度）</p>

(2) 本時の活動

① ねらい

- ・自分も友達も笑顔になる氷鬼の工夫を考え、話し合っで決める。

② 活動計画

児童の活動	支援 (○) と評価 (☆)
<p>1. はじめの言葉</p> <p>2. プロジェクトチームの紹介</p> <p>3. 議題の確認 「すまいるこおりおにをしよう」</p> <p>4. 提案理由の確認</p> <p>5. めあての確認 「ふれあってすまいるこおりおにをしよう」</p> <p>6. 決まっていることの確認 ・12月19日(水) 1時間目 ・体育館</p> <p>7. 話し合い [話し合うこと①] ルールの工夫 <u>出し合う</u> <u>おにのくふう</u> ・おめんをかぶる。 ・みはりをつける。 <u>おにがあいてをたっちするときのくふう</u> ・じゃんけんをして、あいてがかったらにがす。 <u>みかたをたすときのくふう</u> ・両手でハイタッチ ・股の下をくぐる ・かけごえをかける ・ハグする <u>たいいくかんのくふう</u> ・おんがくをながす ・きゅうけいじょをつくる <u>くべる</u> <u>まとめる(決める)</u></p>	<p>○プロジェクトチームは、司会1名、副司会1名、黒板記録2名、ノート記録1名で構成し、前に出て活動する。他の児童も机を半円の形にして、お互いの顔が見えて話し合いがしやすいようにする。</p> <p>○プロジェクトチームは、進行シートを見ながら進められるように助言する。</p> <p>○氷鬼でどんな工夫をしたら笑顔になれるかを考えて話し合うことを助言する。</p> <p>○どの児童も提案者の思いをしっかりと受け止められるように、様子を見て必要なら補足する。</p> <p>○めあてを意識して話し合えるように、再度確認する。</p> <p>○事前に児童が書いた学級会ノートに教師が励みになるコメントを書く。</p> <p>○事前に学級会ノートにある一人一人の意見を伝え、流れを確認しておく。上手くできない場合は助言する。</p> <p>○プロジェクトチームに話し合いで困った時の指導を事前にしておく。 ①発言する児童が限定された場合。 ・少人数での話し合いの時間をもち、全体の場で発表できない児童にも意見を出しやすいようにする。 ②同じような意見が出てきた場合。 ・同じような意見は、合体させるようにする。</p> <p>○できるだけ自分たちで決定できるように見守り、話し合いが行きづまってしまった時には実際にやってみるように助言する。</p> <p>☆司会グループとして司会や記録などの役割を果たしている。 (集団の一員としての思考・判断・実践)</p>

<p>8. 決まったことの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合うこと①で決まったこと <p>9. 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードの記入 ・話し合いの感想を発表する。 <p>10. 先生の話</p> <p>11. おわりの言葉</p>	<p>○ノート記録が決まったことを言えるように事前に一緒に確認する。</p> <p>☆自分の考えをもち、伝えようとしている。 (集団活動や生活への関心・意欲・態度)</p> <p>☆提案理由やめあてに沿って考えたり、友達の発表を自分の意見に生かそうとしたりしている。 (集団の一員としての思考・判断・実践)</p> <p>○学級会の記録を確かめながら、決定事項を分かりやすく発表する。</p> <p>○話し合いのめあてを意識して発言した児童や、みんなで決められたことを褒め、今後の活動に意欲をもって取り組んでいけるようにする。</p>
--	---

まとめる

くらべあう

だしあう

おはのくあま

- ・おめんをかぶる。
- ・みはりをつける。

おはがあいてをたわちますあまのくあま

・じゃんけんをして、あいてがかつたら「がす」。

・おにがなばってねごえをかける。

みかたをたすあまのくあま

- ・両手でハイタッチ
- ・股の下をくぐる
- ・かけこえをかける
- ・ハグする

たいいくかんあまのくあま

- ・おんがくをながす
- ・きゆうけいじよをしんる

だいでかい 1—2かいぎ

またい

「ちまいるにおりおごきごけい」

ていあんゆめ

まえ、こおりおにをしたのしかった。まえよりもふれあってもっとすまいるになりたいから。

めあて

「ふれあってすまいるになるこおりおごきごけい」

はなしあまごよ① すまいるルールのへんり

あまのくあま

きまひつてごころい

あまのくあま

あまのくあま

あまのくあま

あまのくあま

(3) 事後の活動

活動の場	活動内容	支援(○)と評価(☆)
1 2月6日(木) 朝の会	役割分担をする。	○必要な役割を見付け、協力して全員で役割分担できるようにする。
1 2月6日(木)～	各係で準備をする。	○めあてを提示し、意識できるようにする。 ○みんながすまいるになれる内容になるように、活動を工夫できるような助言をする。 ○協力して準備が進められるように声をかける。
1 2月19日(水) 1 時間目	「すまいるこおりおにをしよう」の集会を行う。	○めあてを改めて提示し、意識できるようにする。 ☆何のための集会なのか理解しながら活動している。 (集団の一員としての思考・判断・実践)
1 2月19日(水) 1 時間目	「すまいるこおりおにをしよう」の振り返りをする。	○振り返りの時間を設定し、めあてにせまれたかどうか確認し、次につなげる。 ☆活動に対する自分の取り組みや、学級全体としての取り組みを振り返り、みんなで集会をつくる意義を理解している。 (集団活動や生活についての知識・理解)